

別紙 参考様式 2

令和 7 年度研究推進計画

学 校 名 東広島市立木谷小学校

校 長 名 加藤 燈恵

1 研究主題等について

(1) 研究主題 自律した学び手を育てる個別最適な学びの創造

～メタ認知的視点での振り返りと、自己調整の機会を設定した学習活動を通して～

(2) 主題設定の理由

本校では、学校教育目標を『「今日も学校に来てよかった」と思える学校づくり』とし、児童が主体的に学び合い、「わかった、できた、よかった」を日々実感できる学校づくりを目指して取組を進めている。また、本校において育成したい資質・能力を「課題発見・解決力」「論理的思考力・表現力」「協働の力」「実践力」とし、様々な教育活動を通して育成していくことを目指している。

昨年度から単元内自由進捗学習を取り入れた授業改善に取り組み、算数科での学習を通して本校で育成したい資質・能力を確かな力として身に付けられるよう研究を進めてきた。具体的には、児童自らが作成した学習計画表を活用したり、学習の場や方法等を目的に合わせて児童が選択し、自力解決の臨めるような多様な選択肢と自己決定の場を用意したりした。その結果、「自分で課題を設定し、計画を立て、実行する」児童の姿が見られるようになった。児童・教職員アンケートや学習状況から本校で育成したい資質・能力の向上、児童の基礎学力の定着や主体的・協働的な学びの実現を含めた授業改善に対して一定の成果を上げることができた。しかし、学び方に対する児童自身の肯定的評価は向上しているものの、教師の求める学び方とは差があったり、自身の取組を効果的に振り返り、次時の学びへと生かしていく自己調整の力をすべての児童が発揮したりする段階には至っていない。

令和 3 年中央教育審議会の答申『「令和の日本型学校教育」の構築を目指して～全ての子供たちの可能性を引き出す、個別最適な学びと、協働的な学びの実現～』によれば、子供一人一人が自立した学習者として学び続けていくこと、子供が自らの学習状況を把握し主体的に学習を調整できるように促していくことの重要性が示されている。本校の昨年度からの取組の 1 つである「児童自身が学びの場を選択し、自ら課題解決に向けて取り組んでいくこと」で自立した学習者を育成することにつながるものと考え。加えて、本校の課題である児童自身が正しい視点（本校ではメタ認知的視点と捉えている）で取組に対する振り返りを行い、自己調整して次時の学びへとつなげていくことも重要である。引き続き算数科の教科の本質である「数学的な見方・考え方」を働かせながら学習に取り組むことで、課題の解決に向けて探究することにより、学びがさらに豊かで確かなものになると

考える。そこで今年度は、昨年度までの研究で児童が身に付けた力と取組を基盤としながら、算数科の学習を通じて、メタ認知的視点の振り返りと自己調整の機会を設定することで育成すべき資質・能力をよりよく身に付けさせることにつなげていきたいと考え、研究主題を「自律した学び手を育てる個別最適な学びの創造～メタ認知的視点での振り返りと、自己調整の機会を設定した学習活動を通して～」として研究を進めていくこととした。

（３）研究仮説

児童が状況に応じてメタ認知的視点での振り返りを行い、自己調整の機会を設定した学習活動を行えば、確かな資質・能力を身に付けた自立した学び手を育てることができるであろう。

（４）研究内容

次の２点について、これまでの取組で身に付けた力を基盤に研究を進めていく。

① 「メタ認知的視点」での振り返りを学習過程に取り入れる。

子供一人一人が自立した学習者として学び続けていくこと、子供が自らの学習状況を把握し主体的に学習を調整できるよう、振り返りの視点やモデルを示し、自己調整力の向上を図る。昨年度の実践の反省から、児童の自己採点がうまくできていなかったり、なぜ間違えてしまったのかを整理・解決できないまま、計画に沿って学習を進めてしまったりすることもあった。ただ間違いを直すのではなく、「なぜ間違えたのか」「どうすればできるのか」を考えることが、自己調整力の育成につながると考える。自己採点のレベルアップ表の掲示や「メタ認知的視点」での振り返りについて教師と児童が共有の認識をもつことで、自己調整力を身に付けられるようにする。

② 本時の終末を次時の導入につなげる学びのPDCAサイクルを意識した学習。

昨年度の実践に学びの連続性と振り返りの視点を加え、児童が「自分で学習計画を立て、自分で実行し、自分で振り返る。次に生かす。」学習過程を取り入れた単元構想として、オリエンテーションで教科を学ぶ意義について確認する本質的な問いを投げかけ、児童自身が学ぶ意義や課題を設定することができるような導入を行う。児童は一人一人が自分の目標に沿った計画を立てる（P）。そして、課題を追究するために一人一人が学びの場を選択して学習に取り組む（D）。まとめと振り返りを行う（C）。今後の学習活動に生かしていく（A）。この（C）から（A）への学びの連続性を児童に意識させることで、振り返りの充実と児童の学びの深まりにつながっていく。

(5) 検証の方法及び指標

理論研究	授業研究	調査研究
確かな資質・能力を身に付けた自立した学び手を育てるための授業づくり ・メタ認知的視点での振り返りと、自己調整の機会を設定した授業づくり	メタ認知的視点での振り返りと、自己調整の機会を設定した学習活動の充実 ① 学びの連続性を意識した単元構想 ② 児童が見通しをもって学習に取り組める学習計画表の活用 ③ 多様な選択肢と自己決定を生み出す学習の場と教科学力を定着させるワークシート ④ メタ認知的視点での振り返りと、自己調整の機会の設定	取り組んだ教科における児童の実態調査と分析 ・意欲 ・学び方 ・到達度
検証方法及び指標		
・教職員アンケート	・授業観察表 ・ノート、ワークシート等	・児童アンケート (4月・授業後) ・ノート、ワークシート等 ・単元末テスト ・学習計画表

2 検証計画

検証の視点	方法	検証の指標	検証の視点	時期
① 学習計画表の活用によって、児童が見通しをもち、メタ認知的視点での振り返りによって自己調整を行うことができるか。	学習計画表 振り返りシート	教師による評価	児童の記述から	各学年の授業計画による
	児童アンケート	児童による自己評価	肯定的評価 80%以上	6月に実施後、各学年の授業研究後に実施
② 多様な選択肢の中から自己決定していく場面を意図して設定することにより、授業のねらい及び単元のねらいを達成できていたか。	授業評価表	研究授業における相互評価	肯定的評価 3以上 (4段階評価)	
	ノート ワークシート 学習計画表等	ノート、ワークシート、学習計画表の記述内容	評価基準B以上を達成する児童の割合 80%以上	各学年の授業研究後に実施
③ 「数学的な見方・考え方」を働かせる授業づくりにより、「知識・技能」の力が生きて働くものとして身に付いているか。	単元末テスト	学力評価	設定点数到達率 80%を達成する児童の割合 80%以上	6月・9月及び12月に実施

3 校内研修計画

月	研修内容
4	○研究主題・目指す子ども像について ○メタ認知的視点での振り返りと、自己調整の機会を設定した学習活動の充実に関わる取組について確認
5	○児童の実態調査・分析及び考察 ○単元内自由進度学習、メタ認知的視点での振り返りと、自己調整の機会を設定した学習活動の充実に関わる取組について理論研修 ○全国学力テスト問題分析 ○学習計画表・指導案の形式、木谷版自由進度学習の取組について
6	○研究授業を見る視点と協議の進め方について ○教材研究、学習計画表・指導案・ワークシート等の作成 ○研究授業に向けた指導案検討（高学年ブロック）
7	○研究授業及び事後指導（高学年ブロック） ○次回以降の研究授業について
8	○教材研究、学習計画表・指導案・ワークシート等の作成 ○NRT 学力分析結果交流 ○研究授業に向けた指導案検討（低・中学年ブロック）
9	○研究授業及び事後指導（中学年ブロック）
10	○研究授業及び事後指導（低学年ブロック）
11	○児童の実態調査・分析及び考察
12	○紀要の作成について
1	○CRT 結果分析 ○紀要の作成 ○年間の取組の振り返りと検証
2	○今年度の成果と課題 ○来年度の研究の方向性

4 公開研究の予定について

なし